

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>

稲作農家 各位

山武稲作情報 第5報(2018年7月12日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

山武地域の生育状況

早生品種は出穂期を迎えています。ほ場ごとに差はありますが、例年より出穂が早いほ場が見られます。一方、コシヒカリの出穂は4月下旬移植で7月中旬～下旬を予測しています。また、斑点米カメムシの防除適期になりますので、出穂前の除草と適期の薬剤防除をお願いします。

参考 生育調査ほの調査結果

【主食用米】

品種	場所	年	移植日	幼穂形成期	出穂期
ふさおとめ	山武市 (白幡)	30	4/26	6/21	(7/15)
		29	4/26	6/20	7/13
		平年値	4/28	6/19	7/13
ふさこがね	山武市 (成東)	30	4/26	6/16	7/11
		29	4/25	6/15	7/10
		平年値	4/30	6/17	7/16
コシヒカリ	東金市 (幸田)	30	5/3	6/29	(7/23)
		29	4/28	6/28	7/21
		平年値	4/24	6/27	7/21
コシヒカリ	山武市 (成東)	30	4/26	6/23	(7/18)
		29	4/25	6/23	7/18
		平年値	4/30	6/24	7/23
ふさのもち	山武市 (成東)	30	5/10	7/2	(7/26)
		29	5/10	6/30	7/22
		平年値	5/9	7/2	7/26

平年値は過去10年間（ふさのもちは7年間）の平均値。

【飼料用米】

品種	場所	年	移植日	幼穂形成期	出穂期
アキヒカリ	山武市	30	4/27	6/13	7/6
夢あおば	山武市	30	5/13	7/2	(7/28)

幼穂形成期は幼穂長 1mm 以上の稲が80%以上、出穂期はほ場の40~50%が出穂した日。

出穂期欄の () は今年度の推定日。

郵便で配信している方へお願い

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたは FAX へ切り替えを進めています。電子メール・FAX をお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 山口 k.ymgch87@pref.chiba.lg.jp、 0475-54-0226 (電話)

斑点米対策 ～カメムシの防除について～



表面の一部または全体が着色した米粒を「着色粒」といいます。1000粒のお米にわずか2粒、着色粒が混入するだけで等級が下がり、収入にも影響します。その中でも「斑点米」は、登熟期間中にカメムシ類が米を吸汁することで発生します。カメムシ類は出穂がはじまるこれからの時期に多くみられるので、注意が必要です。

カメムシには主に2つのタイプがあります

◎ カスミカメ類（体長5mm以下の小さいカメムシ）

発生源は畦畔や雑草地で、特にヒエなどのイネ科雑草が多い所を好みます。出穂すると、成虫になったカスミカメが畦畔からほ場に飛来し、稲穂にくっついて吸汁します。



アカヒゲホソミドリカスミカメ

対策 ☆出穂の2週間前までに畦畔を除草

☆8～9割ほど穂が出てきた「穂揃期」の薬剤散布

○有効な農薬・・・スタークル粒剤、ダントツ粒剤、キラップ粒剤 など

◎ 大型カメムシ類（体長1～2cmの目立つカメムシ）

畦畔から、出穂した稲穂に飛来して吸汁・産卵します。葉鞘で生まれた幼虫は、出穂から15日頃の「乳熟期」から吸汁をはじめます。



ホソハリカメムシ

対策 ☆飛来してきた成虫：「穂揃期」の薬剤散布で防除

☆水田で生まれた幼虫：「乳熟期」の薬剤散布で防除

○有効な農薬・・・MR.ジョーカーEW、ダントツ水溶剤 など

農薬のラベルに書かれている収穫前使用日数と使用回数の制限を厳守しましょう！

最近では、ドローンを利用した薬剤防除も行われるようになってきました。畦畔だけではなく、ほ場全体の稲に効率よく薬剤を散布することが可能で、作業時間の大幅な短縮、労力の削減が期待できます。



また、薬剤散布だけではなく、機体下部のカメラで上空からほ場を撮影し、人の目では困難な「ほ場全体の葉色診断」を行う技術も商品化されています。

次回の情報は7月27日（金）に発行する予定です。